

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 株式会社琉球銀行（証券コード:8399）

### 【据置】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付（期限付劣後債）	A-

### ■格付事由

- (1) 那覇市に本店を置く資金量約2兆円の地方銀行。県内の預貸金シェア（ゆうちょ銀行除く）は3割強と高い。近年の沖縄県経済は、人口増加や好調な観光関連産業にけん引され、堅調な成長を続けている。住宅関連の資金需要が旺盛であり、当行でも住宅ローン、不動産賃貸業向けを中心に貸出金は比較的高い伸びが続いている。格付は、恵まれた営業マーケットである沖縄県における堅固な事業基盤、比較的良好な貸出資産の質などを反映している。ただし、コア業務純益はここ2年で大きく減少しており、ROAは業界平均を下回る水準となっている。基礎的な収益力の低下に歯止めをかけ、資本の充実度を維持していくことが課題である。
- (2) マイナス金利政策導入による貸出金利回りの大幅な低下や、カード事業への先行投資などに伴う経費の継続的な増加から、コア業務純益は17/3期以降大きく減少しており、18/3期も人件費増加が利益を押し下げる見込み。19/3期は利回りの低下幅縮小により貸出金利息は下げ止まる見込みであるが、システムや店舗にかかる経費の大幅増加により、コア業務純益はさらに減少する見通しである。当行はカードや法人を含めたフィービジネスを強化しており、手数料収入は増えてきている。加えて、今後は店舗統廃合や人員削減も進める方針であるが、コスト削減を早期に実現し、基礎的な収益力の改善につなげていけるか注目していく。
- (3) 金融再生法開示債権比率は、17年9月末1.88%と良好な水準にあり、与信費用も抑制されている。大口与信先の中で未保全額の大きい要注意先債権がさほど多くないほか、保守的な引当も行っており、今後も与信費用は落ち着いて推移すると見込まれる。不動産業向け貸出金が早いペースで伸びており、足元では貸出構成比が25%を超えていることから業種集中リスクに留意が必要であるものの、その大宗は不動産賃貸業向けであり、人口増加を背景とした堅調な貸貸需要を勘案すると与信費用への影響は当面小さいとJCRはみている。有価証券運用においては、利回り向上のため外貨建て債券を機動的に積み増しているが、有価証券に係る金利リスク量は資本対比で依然として抑制された水準にある。
- (4) 連結コア資本比率は17年9月末9.67%、適格旧Tier2資本などを控除した調整後では8%後半と格付Aレンジの地銀と比較して見劣りしない水準にある。今後も貸出金を中心としたリスクアセットの増加が予想され、同比率は緩やかに低下するとみられるが、格付に見合う資本水準を維持することは可能とみている。

（担当）阪口 健吾・幾島 真

## ■格付対象

発行体：株式会社琉球銀行

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第3回期限前償還条項付無担保社債 (劣後特約付)	120億円	2013年10月30日	2023年10月30日	(注)	A-

(注) 2018年10月30日まで0.76%。その翌日以降は6ヶ月ユーロ円 Libor に 1.85%を加えた率。

### 格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2018年4月27日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三  
主任格付アナリスト：阪口 健吾
- 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2014年5月8日)、「金融機関等が発行する資本商品・TLAC商品の格付方法」(2017年4月27日)として掲載している。
- 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 株式会社琉球銀行
- 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル